



国際会長主題  
 アジア太平洋地域会長主題  
 東日本区理事主題  
 東新部部長主題  
 クラブ会長主題

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」  
 「変化をもたらそう」  
 「変化をたのしもう！」  
 「友情の絆を強めYMCAを支えよう」  
 「クラブライフを楽しもう」  
 Enjoy your club-life!

Jacob Kristensen (Denmark)  
 David Lua (Singapore)  
 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)  
 加藤 義孝 (東京クラブ)  
 朝倉 正昭 (東京世田谷)

会長 朝倉 正昭  
 副会長 松井 直樹  
 書記 松井 直樹

## 2020年10月会報

強調テーマ  
 \*EMC/E YES \*  
 クラブ拡張

会計 小原 武夫  
 直前会長 寺門 文雄  
 担当主事 池田麻梨子

↑今月の聖句

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

For where two or three come together  
in my name, I am with them.

(マタイによる福音書 18章 20節)  
(峰 選)

司会

峰 毅 君

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1. 開会点鐘                | 朝倉 正昭会長             |
| 2. ワイズソングと信条           | 一 同                 |
| 3. ゲストとビジター紹介          | 朝倉 正昭会長             |
| 4. 今月の聖句朗読             | 峰 毅 君               |
| 5. 会食 ありません            |                     |
| 6. コロナ禍でのボランティア活動のありかた |                     |
| 東京YMCA チャイルドケア部門統括     | 秋田 正人 君             |
| 7. ハッピーバースデー 10月1日     | 川嶋良子さん              |
|                        | 17日 峰 毅 君           |
|                        | 28日 岩崎弘君 27日 岩崎晴美さん |
|                        | 30日 朝倉正明 22日 朝倉正子さん |
| 結婚記念日                  | 28日 秋田正人君           |
| 8. ニコニコ献金              |                     |
| 9. 諸報告                 |                     |
| 10. 閉会点鐘               | 朝倉 正昭会長             |

### ※ 10月例会プログラム

とき 令和2年10月16日(金) 18:00~19:00  
 ところ 東京YMCA南コミュニティーセンター3F  
 電話 03-3420-5361

ハイブリッド開催

9月のデータ	会員在籍	13名	例会出席者	9/18日	9月のBF	切手	0g	ニコニコファンド
	出席率	92%	会員	10名		現金	円	
	第2例会	(中止)	メネット	0名	累計切手	0g	年度計	27,010円
			メイキャップ	2名				
			ゲスト	1名				
			ビジター(含むzoom)	2名				
			合計	15名				
			すずらん会参加者	日(木)	東京世田谷ワイズメンズクラブは			注: JOCs 献金記録の掲載
			ゲスト	0名	2019年10月31日 社団法人日本			すずらん会やコミュニティコンサート
			スタッフ	0名	キリスト教海外医療協力会(JOCs)			ではかねてよりJOCsへの応援を行っている。
			合計	名	に年会費10,000円を納入し継続しました。			使用済み切手とワンコインの
			新型コロナウイルスの影響で					献金など。

## ☀ 本日のメインプログラム

秋田正人さんは東京 YMCA 入職以来、宇都宮、大阪と各地の YMCA で勤務、熊本地震の折には熊本 YMCA の避難所にも関わられ、現在東京 YMCA チャイルドケア部門統括として活躍されています。

大阪ボランティア協会のコロナ禍でのボランティア活動のありかたを参考に、ワイズに限らず市民団体の考え方をご提示頂きます。

## ☀ 9月例会報告

小川圭一会員



東京混声合唱団の「歌えるマスク」を着用しての開催の話題から、何か方法をと考慮していた折、沼津の渡邊美帆さんが歌えるマスクを創っているということがわかり、早手配し、実物を購入。このマスクを使用し歌の会の再会を計画、9月24日(木)試験的に実施ということに。

寺門文雄会員



2019年7月より開園したYMCA 保育園ねがい。そこでの植栽活動の状況報告を。  
無味乾燥な園庭や、園舎の周りを植栽により、彩明るくできればと始めた活動。一年が経過し、花壇やプランタに植え付けた、水仙・百合も季節ごとに開花し、夏にはヒマワリも大きく咲いて、小さな池のメダカが元気に泳ぐ姿に園児も興味津々とか。今後は、園児が野草と遊ぶ場所があればと、高橋園長のご希望に答えられるように工夫を。

お二人には当クラブのYサ・CS活動について語っていただきました。

(小原 記)

## ☀ YMCA すずらん会を再開しました



コロナ禍ですが、様々な活動が動き始める中、経堂と下北沢のすずらん会も再開です。それでも「歌う」と口の飛沫が飛びますね。コンサートや教会の礼拝でも、三蜜を避け、歌う事を極力抑えています。マスクを付けることも当たり前になりました。すずらん会も「歌えるマスク」を工夫したり、人数制限や、口を開かないハミングで歌う事、さらに休憩時間にCDを聞いたりYMCA 便りのような、ボランティア案件の共有など工夫を凝らします。



また、ZOOM 配信にも挑戦します。他クラブの皆さんにも見て参加してもらえますので、たくさんの皆と楽しめるといいなと考えています。

(小川 記)

## ☀ 熊本豪雨被災地派遣報告

9/28-10/12まで7月熊本豪雨被災地支援のため多良木避難所へ派遣された。

廃校となった旧多良木高等学校を避難所として利用して、9月30日時点では、76世帯136名が21教室と体育館で居住。仮設住宅が完成し始め、日々住民が減っている頃だった。

被災地である球磨村は車で1時間以上離れており、多良木避難所にいるだけでは豪雨の被害は全く分からない。しかし避難所にいる人たちが住んでいた場所がどのよう

な場所なのか知るために空港からまずは被災地である球磨村へ向かった。

山と川に挟まれた村は逃げ場が無く、豪雨の時には5日間孤立して救助が来なかったとのこと。どれだけ不安だったのだろうか、と考える。村は、ほぼ壊滅状態で今は誰も住んでいない。

ボランティアセンターや避難所から遠い、新型コロナウイルス、道路が復旧していない、被害が広範囲などの関係で人手不足となり復興がなかなか進まない状況。避難所の皆さんは、とても協力的で自立しながら生活をされているが、ほぼ高齢者でストレスが増えてきた。例えば、夜中にコンビニに出掛けたまま朝まで戻ってこなかった人に理由を聞くと「ドアを開ける音がうるさいから、戻ると迷惑をかけるから車で寝てた」と。周りに気を遣

いながら生活していることが分かる。しかし一方で仮設住宅に入ったが、「寂しい」と言って、頻繁に戻ってくる住民もいる。

10/31が避難所の最終日の予定。それぞれが仮設住宅や家に戻っていくが不安も多い。皆さんが安心して穏やかに暮らしている日が早く訪れることを切に願っている。

(池田 記)



② 強いリーダーシップ しかし、いくらきっかけがあっても動かなければ意味がありません。甲府の過去の例を観ると、その時の会長や会員増強委員長が強いリーダーシップを発揮した年は、それに伴い成果も上がっています。

③ 何人かの情熱家(ワイキチ)の存在 それに加え、メンバーの中に数名の情熱家(所謂ワイキチ)がいると心強いものです。富士五湖や長野の設立活動の時、自分だったらとっくに諦めていたと思うことが、ワイキチと言われるような先輩会員達の情熱で乗り越え、目的が成就しました。

④ これからの会員増強活動、これからの社会の変化 (人口減少・コミュニティの崩壊・格差拡大・コミュニケーションの多様化・大規模自然災害の多発・未知の疫病の蔓延等)を考えると、これからの「クラブ像」はどうあるべきかと、考えざるを得ません。そんな中で一つのヒントとなるのは、去る2月1日に開催された「Change! 2022 シンポジウム」で提唱されたアクションプランです。昨年初夏から準備会を始めた新クラブのコンセプトも、方向性に共通するものが多かったので“我が意を得たり”でした。新クラブの“産みの苦しみ”が“産みの楽しみ”となるようなワイズであって欲しいと、偶々の誕生日にそんな夢を描きました。

## ※ 会長通信 2010

10月に入ってもコロナ感染の拡大の終息の見通しは立っておらず、インフルエンザの流行と合わせてコロナ禍への配慮も欠かせないようです。政府、自治体の対策はともかく、手洗い、マスクの着用、密集を避けるという基本を各個人が日常化して対応する事が最大の防御策のようです。国際協会から改めて、コロナ感染拡大の下で各ワイズメンズクラブの活動はどうあるべきかを示唆されていますのでその大意をご紹介します。

我々のクラブの会員の多くの方が高齢者であることに鑑み、一端コロナウイルスに罹患してしまうと重症化のリスクが高いといわれているので、直接の接触を極力避けなければならない訳ですが、国際協会が示唆しているのは、直接コミュニケーションを取る機会がなくなる中で、会員間のコミュニケーションを電話、ライン、ZOOM等のインターネットのアプリを活用して、切らせない努力を各クラブ会員が保つようにしてほしいといわれています。国際協会はこの理由として、一般的にインターネットの活用は人口の50%は、技術的、財政的等々の理由にインターネットへのアクセスが出来ないといわれています。この現象をデジタルデバイド(情報格差)と呼ばれています。情報格差と呼ばれるのは、生活のあらゆる局面で情報が決定的に不足するからです。例えば

## ※ Change! 2022 ニュース No. 15 より要旨転載

### 「甲府クラブでの活動から感じたこと」

東日本区ヒストリアン 仙洞田 安宏さん(甲府)

私は富士五湖と長野の設立活動に先輩会員の“カバン持ち”として関わり、“産みの苦しみ”を共有する経験をしました。これらの経験を通して感じてきたことを記してみます。

① きっかけづくり どんな組織でも仲間を増やすことは永遠のテーマですが、毎日が会員増強デーだったら疲れてしまいます。甲府クラブでは周年記念をEMCの機会と捉え、新クラブを設立してきました。何かのきっかけを設定することで、会員増強のモチベーションを高めることができます。

昨今の就職活動では、ネットを活用して会社の情報を収集し、入社への申込みの大半の会社ではネットを通じてしなければならないといわれています。この様に情報格差は社会生活の中で不可欠になっている訳です。従って国際協会はインターネットを活用してコミュニケーションを取る事は、ワイズメンズクラブの生存にとって、今後必要十分条件であるとしています。従って我々のクラブの中でも五十の手習いといえるかもしれませんが、コンピューター、インターネットをどの様に使うかの啓蒙を進めて下さいといわれています。又、我々がサービスを提供する方々は我々の提供するサービスに参加出来ない事で、社会の活動から疎外されてしまうので我々が今まで以上に知恵を絞ってどのようにサービスを提供できるかを考えて欲しいといわれています。我々自身が抱えている問題と合わせ、簡単に解決できるとは思われませんが、今こそ我々の英知を結集して地域事業を強化する事が求められていると思います。今まで我々が経験していない状況に直面しているので、皆様のお考えを忌憚なく話し合える場を持つ事から始めましょう。

(朝倉 記)

## ☀ YMCA NEWS

1. 7月に発生した熊本豪雨災害による被災者支援として、熊本YMCAは球磨村役場より「旧熊本県立多良木高校避難所」の運営委託を受けたが、感染予防を徹底することで県外からのボランティアの受入体制が整い、全国YMCAから応援職員を派遣できることになった。東京YMCAからも9月14日より10月末まで、交替で計9名の職員を派遣する予定。同避難所には、復旧に時間のかかる被災地域からの住民約150名(9月17日現在)が避難しており、応援職員は、避難所内の衛生管理、食事補助、運動指導、避難所建物の応急修理など、避難生活全般のサポートを行う。なお、全国で引き続き「熊本豪雨災害・ポジティブネット募金」を受け付けている。9/28(月)～10/12(月)まで池田も派遣されます。気を付けて行って参ります。

2. 今夏は新型コロナウイルスの影響により、子どもを対象とした通常のサマーキャンプは実施できなかったが、山中湖センター、及び野尻キャンプ場にて「家族キャンプ」を実施したところ、計7回のキャンプに60家族、223名が参加し、好評であった。感染防止対策として定員を少なくした他、現地集合・解散とし、現地のプログラムは自由参加とするなど、新しい形式のキャンプとなった。なお、同プログラムは、文部科学省の「子供たちの心身の健全な発達のための子どもの自然体験活動推進事業」の認定を受け、秋にも10/24-25、10/31-11/1、11/21-22、11/22-23の合計4回実施予定。

3. 食品などを無料提供する「パントリー」を、コロナ禍の影響やひとり親家庭などで困窮している江東区内の家族を対象に、9月12日に東陽町センターで開催した。食料品を21家族、37名の子どもたちに配布し、好評であった。江東区内の9か所のこども食堂と協働し、事前の募集から仕分けや配布作業を協力して行った。実施に当たっては、多くの企業や個人から、寄付や食品の提供をいただいた。

### 4. 今後の主な行事日程・

#### 「チャリティーコンサート」

(libyと高等学院、及びNPO日本移植支援協会の活動のために) 10月2日 会場：霊南坂教会

(定員100名。有料動画配信あり。)

出演：飯靖子(オルガン)・飯頭(ヴィオラ)

・nutmeg(歌)・

#### 「第34回インターナショナル・チャリティーラン」

10月24日～11月1日(歩数計アプリを利用した歩く競技として開催)

#### 「YMCA/YWCA合同祈祷週礼拝」

11月12日 会場：社会体育・保育専門学校

説教：金性済(キム・ソンジェ)牧師(日本キリスト教協議会総幹事)

(会場出席の他、オンラインによる参加もあり。)

#### 「第22回愛恵エッセイ募集」

＜豊かな福祉社会を創るために＞

11月13日締切(東京YMCA会員部と愛恵福祉支援財団との共催)

### 5. 感謝

・東京山手ワイズメンズクラブより、クラブ解散にあたり、山手センターの活動のために1,078,433円のご寄付をいただいた。

・クリス・ホーランド氏(東京YMCAインターナショナルスクール職員)より、義父ご逝去に伴い、YMCAの諸活動のために500,000円のご寄付をいただいた。

### 6. 南センターニュース

10/18に例年のバザーを名称を変えて、「フェイス」ティバルとして実施します。実際に集まるのではなくオンラインとなりますが、南センターにつながる多くの人たちの「顔」が見えて、楽しい時間が過ごせることを願ってこの名前を付けました。

チャリティーTシャツの購入や抽選会の景品、チャリティーオークションの物品提供などご協力くださいますようお願い申し上げます。

(池田 記)